

<事業所向け自己評価表>

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか		○		利用児に対する建物の面積は確保できているが、利用児が増加しており、特に平日は定員いっぱいの日が多く、雨等で屋外遊びが出来ない日は手狭になってしまう。
	②	職員の配置数は適切であるか	○			法で示されている加配の人数の配置は常にしており、外出行事等必要に応じて更に追加の職員の配置を行っている。
	③	事業所の設備等についてバリアフリー化の配慮が適切になされているか		○		単位Ⅱに関しては建物の構造上バリアフリーとなっていない為、配慮が必要な利用児に関しては、単位Ⅰをご利用頂いている。
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか		○		職員会議の中で随時検討を行い、必要に応じて正規職員会議で検討及び取組を行っている。決めたことを継続することができていないことがある為、検討の継続が必要。
	⑤	保護者向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			昨年度の結果をもとに、各種マニュアル等をホームページで公表を行う等の対策を行った。
	⑥	この自己評価の結果を事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			昨年度の結果の公表を行っている
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			○	第三者委員による外部評価の実施は行えていない。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			常勤職員の研修計画を立てており、それに基づいた研修の機会を確保している。
	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか		○		導入時にアセスメントを行い、アセスメントとニーズと発達検査等の結果を基に個別支援計画を作成している。その後は支援を行う中で、発達段階と課題を見立て、モニタリングで評価を行い、支援計画の見直しを行っている。単位Ⅱでは脳パランサーキッズにより発達指数を整理し、その結果を分析し、支援計画に反映させている。

適切な支援の提供

⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			独自のアセスメントシートを作成し、使用している。 今後適時見直しを行い改良していきたい。
⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			年間行事案の作成と、毎月、翌月に行う行事の立案は常勤職員全員で行っている。
⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			季節の行事や地域の行事の情報収集、ボランティアや外部講師を招いての行事の提供など、固定化しないように常に工夫をしている。今後も継続していきたい。
⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援をしているか		○		放課後に行う課題、休日に行う課題等個別支援計画の作成時やモニタリング時に職員で検討し、整理して支援を行っている。利用児が多くなる中で計画通り支援の提供が行えていない部分もある為、職員全体で適切な支援の提供が行えるよう支援の質を向上させていきたい。
⑭	子どもの状況に応じて、個別支援と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			基本は集団活動としながら、その中で生じてくる課題については個別に対応し、再度集団の中でその課題をクリアできるよう支援をしている。また障害特性に応じて集団活動より個別の活動を好む場合は、個別の対応にて支援を行っている。今後は個別療育にも力を入れていきたい。
⑮	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日に行われる支援の内容や役割分担について確認しているか			○	前日の振り返りと共有事項の確認は行っている。その日の支援内容の確認や役割分担については、日常の業務や事務作業に追われ、全ての利用児に対しては行えていない。質の高いサービスを提供する為にも、時間を確保し実施していきたい。
⑯	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか			○	毎日振り返りのミーティングを行い、その日の振り返りを行っているが、送迎まで終わり全員が揃う頃には時間が多くは残っていない為、短時間で共有を行っている。時間の確保が課題である。

	⑰ 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか			○	支援計画に基づく記録がまだ充分行えていない為、記録を行う職員のスキルアップが必要である。 また、送迎に出る職員と延長支援の利用児の対応を行う職員、記録を行う職員に分かれて作業を行う為、十分な時間の確保が行えていない。
	⑱ 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			モニタリングは行っているが、一人一人に十分なモニタリングの時間の確保ができていない。
	⑲ ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っているか	○			総則の、ア・自立支援と日常生活の充実のための支援、イ・創作活動、エ・余暇の提供は行っている。ウの地域交流の機会の提供に関しては、地域の活動や取組も希薄化している中、どのような活動が可能であるか市とも相談をさせて頂いている。ボランティアの活用や見学は随時行っている。
関係機関	⑳ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			担当者会議の機会は多くは無いが、開催される際には主に児童発達支援管理責任者が出席をしている。
	㉑ 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	○			学校と直接、送迎時間の確認や、何かしらの対応が必要な場合等連絡調整することができている。
	㉒ 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか				医療的ケアを必要とする児の受け入れは行えていない。
	㉓ 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか			○	現在利用中の関係機関との連携は必要に応じて行っているが、以前利用していた関係機関との連携は行えていない。
	㉔ 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	○			卒業後福祉サービスの利用に繋がる場合等は、会議に出席し、園で取り組んでいた支援の状況や残る課題等について、伝達を行っている。必要に応じて卒業後も事業所を訪問し、支援を行う。

関 や 保 護 者 と の 連 携	②⑤	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか		○	内部研修に発達障害者支援センターの方から講義を頂いたり、個別ケースでは医療機関の医師等から療育の助言を頂いている。地域の児童発達支援センターとの連携はなかなか行っていない。
	②⑥	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害がない子どもと活動する機会があるか		○	施設の目の前に地域の小学校があり、グラウンドで遊ばせて頂く際に、学童の児童との交流がある。一緒にボール遊び等行っている。それ以外の機会の確保はできていない。
	②⑦	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか		○	放課後等デイサービスの立場での参加の機会が無い。
	②⑧	日ごろから子どもの状況を保護者と伝えあい、子どもの発達の状況や課題について共通理解をもっているか		○	直接送迎に来られる保護者の方とは顔を合わせ、話をする機会が多いが、施設の送迎を利用されているご家庭の保護者の方とは、連絡帳を通したやり取りが中心となってしまうため、機会が限定されている。計画の更新時に面談を行い、機会の確保を行っている。
	②⑨	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか		○	まずは職員自身がスキルアップを行い、保護者の方への支援を行っていきたい。
関	③⑩	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		契約時に説明を行っている。
	③⑪	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか		○	②⑧と同様。保護者の方からご相談頂く場合は応じることができているが、顔を合わせる機会が少ないご家庭に関しては機会が限定されている。
	③⑫	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか		○	昨年度保護者会を2回行ったところ、2回目の参加者がとても少なかった。回数が多くなると保護者にとって負担が大きくなることが考えられた為、今年度は1回のみ実施している。その代わりに保護者参加のバスハイク等を長期休暇の度に実施し、保護者同士の交流の場として機会を確保した。しかし今回のアンケートの結果から、機会が少ないとの意見を頂いたことから、今後取組を再考していきたい。

保護者への説明責任等	③③	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			第三者委員を選任し、苦情解決のシステムを作り、ポスター掲示を行っている。意見箱を設置し広く意見を頂けるようにしている。苦情があった場合は苦情解決責任者を中心にその解決に向けた取り組みを行っている。
	③④	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか			○	法人の広報誌が定期的に発行されているが、放課後等デイサービスのページは限られていることから、取組を報告させて頂く機会を増やす必要がある。今年度から写真販売の取組を行っている。広報や周知の仕方について更に検討を行いたい。
	③⑤	個人情報に十分注意しているか			○	個人ファイルの収納棚は施錠して、情報が外部に漏れることの無いよう徹底している。しかし事務所内に利用児が入り職員の机上を見ることがある為、事務所内に利用児が入らないよう支援を行っている。
	③⑥	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			視覚障害のある保護者の方には書類等の配布物がある際には、情報が伝わるよう直接職員が口頭で伝達できるようにしている。今後も必要に応じて工夫をしていく。
	③⑦	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか			○	地域の自治体との連携と交流の機会を作っていきたい。読み聞かせ等地域のボランティア等の活動は随時行っている。
非常時等の	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○			ホームページで公表している。ネット環境が整っていない等のご家庭に対しては、紙で配布をするようにしている。
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			年に2回避難訓練を実施している。アンケートでご意見を頂いた為、今後保護者への引き渡しを想定した訓練も計画していきたい。
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか			○	虐待防止の研修がある時には必ず常勤職員が研修に参加している。また法人内でも年に1度は虐待防止研修を行っており、必要に応じて事業所内でも短時間職員も含めた研修を実施している。また適時身体拘束の3要件も確認をしながら、適切な支援の実施と記録の仕方等全体で共有し、実践している。しかし言葉の使い方や促し方等不適切と感じる場面が見受けられるため、お互い指摘をし合いながら、質の向上に努めていきたい。

対応	④①	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得たうえで、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○			障害者福祉施設等における障害者虐待の防止と対応の手引きを基本とし、一時的に保護を必要とする場合は、組織で決定し、個別支援計画に記載、保護者に説明、同意を頂いた上で、生命や身体、他児の身体を守る上で必要最低限の状況で行っている。また実際保護を行った場合は必ず保護者に報告すると共に、適切に記録を行い、実地指導等の機会に県に報告を行っている。
	④②	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がなされているか	○			導入のアセスメント時にアレルギーの聞き取りを行い、給食の委託先に伝え、対応を行っている。
	④③	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか		○		事故報告書の作成は行っているが、日常業務でのヒヤリハットは今後積み重ねが必要。